

2018年度 同志社大学大学院 司法研究科

後期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

次の(設例)を読んで、甲と乙の罪責について、具体的事実を指摘して論じなさい(ただし、特別法違反を除く。)(配点：100点)

(設例)

1. 甲(男性、45歳)は、離婚した妻との間に産まれた一人息子の乙(男性、13歳)と二人暮らしであったが、リストラにより失業し、蓄えも底をつき経済的に困り果てていた。平成29年9月、甲は、高齢者支援サービス事業を手掛けるA社の非正規社員として採用され、依頼主の介護・付添や自宅の清掃等を行っていたが、依頼主は独居老人が多く、比較的裕福な人が多いと思った。甲は、数人の依頼主を担当した。その内のB(女性、80歳)が一人暮らしを続けていたが、寝室の飾り棚には貴金属類(300万円相当)が陳列されていた。甲は、Bとの会話から、銀行預金もあるが、金利が低いので、Bが1,000万円程度のいわゆるタンス預金をしているとの情報を得た。そこで、甲は、Bの留守中に侵入して、金品を盗み出そうと考えた。しかし、B宅は鉄筋コンクリート造りの2階建てで1階の窓は全て面格子で囲われており侵入困難であるため、2階のベランダによじ登りその窓から入るしか方法はないと判断した。甲は、乙がオリンピックの新種目となったボルダリング・クライミングに打ち込んでいることを思い出し、乙の協力が必要であると考えた。
2. 帰宅後、甲が乙に犯行計画を伝えたところ、乙は、「スリルがあって面白そうだね。根こそぎ盗ってきてやるよ。」等と言い、乙がBの病院受診による留守の間にB宅に入り貴金属類や現金及び通帳類等を盗み出すという計画を二人で念入りに練った。同月15日午前10時頃、甲と乙は、B宅前に到着し、事前の打ち合わせ通りBが留守であることを確認するため玄関チャイムを鳴らし、甲がB宅の近くに待機し見張り役を実行し、乙が身軽に外壁などを伝ってベランダによじ登り、2階窓から侵入した。
3. 乙は、Bの寝室に入ると、ベッドにBが横たわっていたことに驚いたが、それ以上に驚いたBが大声を出しそうになったので、Bの口を押え、「おとなしくしないとぶっ殺すぞ。有り金と宝石、預金通帳と銀行印とキャッシュカードを出せ。」と言って、甲には無断で持参したカッターナイフをBの首に押し当て脅した。Bは、怖くなって、乙の指示通り、貴金属類の他、現金1,000万円、C銀行の預金通帳(残高10万円)と、銀行印及びキャッシュカードを乙に渡した。さらに、乙は、Bに対し「キャッシュカードの暗証番号も教えろ。」と凄み、Bから同番号を聞き出した。その後、乙は、Bに騒がれたり警察に通報されたりすると困ると思い、2階の階段上から階下にBを突き落とし、手首と右足骨折による全治3か月の重傷を負わせた。この間、甲は、Bが在宅していたことも、乙がカッターナイフを持参してBに対して暴行等を加えたことも認識していなかった。乙は手に入れた金品を全て甲に渡した。